私がなぜ現在の科目を選んだか

「リウマチ・膠原病内科」

信州大学医学部内科学第三教室
市　川　貴　規

なぜリウマチ膠原病内科なのか。数あるメジャーな診療科ではなく，ともするとややマニアックにも捉えられがちな当科目を，私がなぜ選んだか。

医師免許を取得するために両親の脛を骨髄レベルまでかじってしまった私は，卒後は地元長野県に戻り，地域医療に貢献しようと考えていました。その当時は，まさか数年先の自分が，ここまでステロイド剤を多く扱うことも，患者さんの関節所見を丹念にとっていることも，全く想定しておりませんでした。初期研修先の長野赤十字病院では，脳神経内科領域，膠原病領域の両方を第三内科の先生方が診療されていました。当時の脳神経内科部長であった矢彦沢裕之先生は，特に認知症患者さんに対して非常に情に満ちた向き合い方をされており，とても感動したことを今でも覚えています。この時の感銘と，ある印象的な患者さんとの出会いもあり，私は第三内科入局を決意しました。

30歳代の２児のお母さんでした。中枢神経ループスによる横断性脊髄炎で対麻痺となり，懸命に治療とリハビリを行う姿を受け持ち医としてみさせて頂きました。全身性エリテマトーデスはその名の通り，免疫学的機序を背景に全身の諸臓器に障害を来し得る代表的な膠原病疾患です。その中でも稀な中枢神経系合併症を経験し学問的な興味が湧いたのと同時に，この患者さんのように，何のリスクも無い比較的若年の患者さんが発病しうる病気を治したい，と感じたのが始まりだったように思います。

膠原病疾患は以前は治らない難病と捉えられてきましたが（現在でもその節はあるかもしれませんが），近年，抗体製剤や分子標的薬の進歩が進み，嬉しいことに患者さんが目に見えて良くなっていくプロセスを体感できるようになってきています。根治，ドラッグフリーが可能かというとまだまだ課題がある現状ですが，リウマチ膠原病患者さんが健常者と何も変わらない日常生活を送れるよう，微力ながらサポートしていければと考えています。　（埼玉医科大平25年卒）

私がなぜ現在の科目を選んだか

「呼吸器外科」

信州大学医学部外科学教室呼吸器外科学分野
三 浦　健 太 郎

なぜ私が外科医になったのか。あまり大きな声では言えませんが，優柔不断な私は，なんと初期研修医２年目の３月30日に，すでに入局が決まっていた某科から外科に変更させていただきました。実に後期研修が始まる２日前の出来事です。10年以上も昔の出来事ですが，今思い返してもとんでもないことをやってしまったと反省しております（おそらくギネス記録でしょう……本当にいろいろな方に多大なるご迷惑をおかけしました）。

そしてなぜ「呼吸器」外科医になったのか，お恥ずかしい話，私には諸先生方が書かれているような熱い話はありません。フィーリングです。

そう，優柔不断の私は，なんとなく流されて，気がついたら今ここにいます。しかし今，なんの後悔もありません。運がいいのでしょうか，いろいろありましたが，今，このような素晴らしい環境でお仕事を頂戴し働かせていただいております。呼吸器外科医になって本当によかったと感じています。

現在の信州大学呼吸器外科の魅力についてお話させていただきます。呼吸器外科手術の大半は肺癌です。肺癌は日本の癌種別死亡数１位の疾患です。この予後の悪い肺癌にメスで立ち向かう，手術で根治を目指す，これだけでもう十分魅力的な科と言えるでしょう。さらに，2019年に清水教授が着任されてからは，術後の呼吸機能の温存を目指すための区域切除という術式を積極的に行うようになってきました。もしかしたら世界で信州大学でなければできないであろう難しい区域切除も経験しました。最先端のロボット手術も積極的に行っています。術式やアプローチも含めて非常に将来性の高い魅力ある分野だと思われます。もちろん学術的な面でも信州から世界に発信できるよう，医局員一丸となって日々研鑽を積んでおります。

信州大学呼吸器外科の合言葉は「日本一の医局を目指して」です。研修医のみなさん，学生のみなさん，ぜひ一緒に日本一を目指しませんか！

（信大平19年卒）